

## 上区の守護神が舞うふるさとづくり (平成24年度認定)



1892年に当時あった5集落は、平良の添え村として行政分離され下里添村となった。その際、村分けの祝いとして下里の主が村の守護神である2頭の獅子を下里添村に贈ったという。その後、下里添村では、感謝を込めて毎年旧暦8月15日に豊年祭を催し、獅子舞をブンミャー御嶽にて行う慣わしとなり、上区の獅子舞として現在に至っている。下里添村は1921年に下里添上区と下里添下区に分字し、上区はその後上区部落、戦後は下北部落とも称するようになっている。各種補助事業が導入されており、城辺町のころ連続20年間、農事奨励賞を受賞している等純農村地域で、近年ではさとうきびをはじめ、マンゴーや和牛生産が盛んである。

その中で、本会は獅子舞という地域の重要な伝統文化を継承し後世に伝えるため昭和59年4月に結成され、豊年祭の他にも地域の祭りや郷友会、更には他地区においても獅子舞を披露しており、現在まで約100回の演舞を行っている。

このように、本会は地域の伝統文化である獅子舞を継承し後世に伝えるとともに、各種活動を通じた連帯意識の向上や地域の活性化、他地区との文化的交流に寄与しており、【上区の守護神が舞うふるさとづくり】に取り組んでいる。



豊年祭



豊年祭



中学校運動会(演舞指導)



宮古まつりにて演舞



九州市長会にて演舞



郷友会にて演舞